



大阪油化工業株式会社

2023年9月期第2四半期 決算説明資料



東証スタンダード
証券コード:4124

2023年5月11日

1

2023年9月期上期決算概要 P.03

2

2023年9月期業績予想 P.11

3

トピックス P.13



1. 2023年9月期上期決算概要

連結

売上高

649百万円

前期比16.6%増

進捗率51.9%

営業利益

93百万円

前期比56.9%増

進捗率62.1%

- ◆ 売上高については、受託蒸留事業・プラント事業ともに前年実績を上回って推移したため、前期比16.6%の増収となっております。
- ◆ 営業利益については上記の理由により、前期比56.9%の増益となっております。

受託蒸留事業

売上高

588百万円

前期比**11.5%**増

プラント事業

売上高

117百万円 (※)

前期比**138.6%**増

※ プラント事業セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高または振替高56百万円を含んでおります。

- ◆ 受託蒸留事業については、全般的に堅調に推移し、前期比11.5%の増収。
- ◆ プラント事業については、ろ過装置を安定的に受注したことにより、前期比138.6%の増収。

(単位：百万円)	2022年9月期 上期	2023年9月期 上期	前期比(%)
受託蒸留事業売上高	527	588	+ 11.5%
研究開発支援(※①)売上高	132	136	+ 2.7%
受託加工(※②)売上高	395	451	+ 14.4%

※① 研究開発支援：顧客の研究開発部門の支援を行うサービスをいう。

※② 受託加工：中/大型の蒸留装置による製造規模の蒸留及びそれに付随するサービスをいう。

受託蒸留事業の実績ポイント

- ◆ 半導体メーカーにおいて在庫調整や設備投資計画を見直す動きが見られ、電子材料向け案件の引き合いが減少し、減速感が生じた。
- ◆ その他の蒸留案件の引き合いは引き続き堅調に推移したことより、増収。

(単位：百万円)	2022年9月期 上期	2023年9月期 上期	前期比(%)
プラント事業売上高	49	117	+138.6%

プラント事業の実績ポイント

- ◆ 蒸留装置の工事・メンテナンスの実施及びろ過装置の安定的な受注により、増収。
- ◆ 将来の布石として、自社オリジナル装置を開発。

- ◆ 売上高に関して、前ページに記載のとおりです。
- ◆ 売上原価に関して、蒸留案件の増加及びプラント事業の工事完成により、前期比増加。
- ◆ 販管費に関して、人材投資に伴う人件費の増加により、前期比増加。

(単位：百万円)	2022年9月期 上期	構成比 (%)	2023年9月期 上期	構成比 (%)	増減率(%)
売上高	556	100.0	649	100.0	16.6
売上原価	306	55.1	345	53.2	12.6
売上総利益	249	44.9	303	46.8	21.5
販売費及び一般管理費	190	34.2	210	32.4	10.5
営業利益	59	10.7	93	14.4	56.9
経常利益	59	10.7	89	13.8	50.4
親会社株主に帰属する四半期純利益	35	6.3	58	9.1	67.5
1株当たり四半期純利益(円)	33.28	-	56.98	-	-

- ◆ 自己株式取得による現金及び預金の減少などにより、流動資産が減少。
- ◆ 未払費用、買掛金及び未払法人税等の減少などにより、流動負債が減少。

(単位：百万円)	2022年9月期	2023年9月期 上期	増減
流動資産	1,072	1,001	▲71
現金預金	801	762	▲38
売上債権	119	122	3
棚卸資産	119	85	▲34
その他	32	30	▲2
固定資産	985	972	▲13
総資産	2,058	1,973	▲85
流動負債	230	154	▲75
固定負債	14	12	▲2
純資産	1,813	1,806	▲7
負債純資産合計	2,058	1,973	▲85
自己資本比率	88.1%	91.5%	+3.4pt.

- ◆ 増収増益となったため、営業CFは大幅に増加。
- ◆ 自己株式の取得により、財務CFは支出増加。

(単位：百万円)	2022年9月期 上期	2023年9月期 上期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	41	118	77
税金等調整前四半期純利益	59	89	30
減価償却費	71	61	▲9
その他	▲51	0	52
法人税等の支払額	▲38	▲33	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲71	▲71	0
有形固定資産の取得による支出	▲71	▲68	2
その他	0	▲2	▲2
フリーキャッシュ・フロー	▲30	47	77
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲26	▲85	▲59
自己株式の取得による支出	—	▲59	▲59
配当金の支払額	▲26	▲26	0
現金及び現金同等物の期末残高	658	762	103



2. 2023年9月期業績予想

- ◆ 2022年11月10日付「2022年9月期決算短信」で公表した通期の連結業績予想に変更はありません。
- ◆ 半導体メーカーの在庫調整や設備投資の見直しにより電子材料向け案件の引き合いが減少したものの、上期実績は概ね順調に進捗しております。

(単位：百万円)	2023年9月期 上期	2023年9月期 業績予想	進捗率(%)
売上高	649	1,250	51.9
営業利益	93	150	62.1
経常利益	89	150	59.9
親会社株主に帰属する四半期/当期純利益	58	100	59.0
1株当たり四半期/当期純利益(円)	56.98	94.16	—



3. トピックス

課題

- ◆ 「流通時価総額」 (= 「流通株式比率」 × 「時価総額」) について、上場維持基準10億円に対して、2022年9月末時点で約9.2億円と基準未適合。

「流通株式比率」は約60.0%と高水準を維持しているので、「時価総額」増加に向けた業績並びに企業価値の向上に向けた取り組みが不可欠と認識。

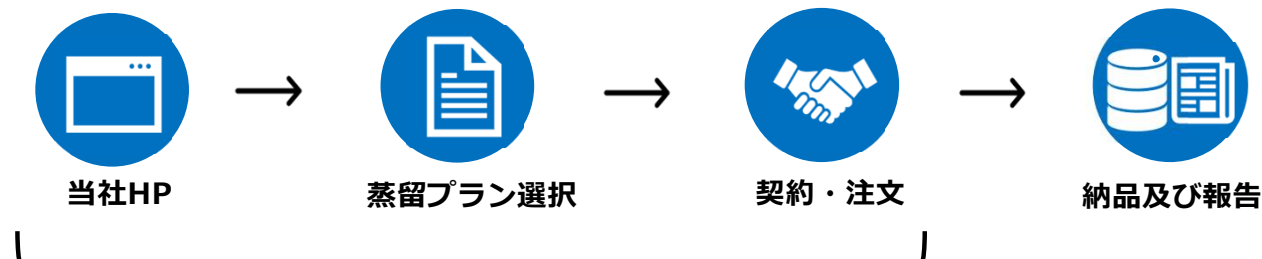
課題に対する取り組み

- ◆ 中期経営計画の着実な実行に伴う業容の拡大
- ◆ 継続的な株主還元 (目標とする配当性向30%以上)
- ◆ IR施策の充実 (個人投資家様向け会社説明会の開催を検討)

計画期間である2025年9月末までの間に「流通時価総額」が上場維持基準に適合するよう、これらの取り組みを進め、東証スタンダード市場への上場を維持できるように努めてまいります。

- ◆ 蒸留案件のご依頼について、当社ホームページからお気軽にお問合せいただき、蒸留サービスを利用いただけるパッケージサービスを2023年5月より提供開始予定としております。
- ◆ 「契約内容・蒸留設備の運転条件・分析条件」をパッケージ化することでお客様はプランを選択し、材料を支給いただければ成果物が納品されます。

受託蒸留の パッケージ化



オンラインの活用により時間短縮・コスト低減を実現

- ◆ 「ユニット型蒸留装置」プラント導入支援サービスを2023年4月より提供開始。
- ◆ 自社オリジナルろ過装置「コンテナイン」を2023年4月より販売開始。



ユカエンジニアリング株式会社

【蒸留プラント支援】：ユニット型蒸留装置

- ・ 主要部品、部材を選択するだけで蒸留プラントを簡易に導入。
- ・ パーツの組み合わせにより工期を大幅に短縮、コストダウンも可能。
- ・ 別の場所に移設する際も容易であり、海外展開も視野。



株式会社カイコー

【コンテナイン】：ISO規格コンテナサイズのろ過装置

- ・ プロトタイプとなる初号機は4月試作完成。
- ・ 省スペース、かつ量産化による短納期を実現。
- ・ 受注獲得に向けて既存顧客への提案を開始。



技術と経験を武器にプロジェクトを完遂する、
精密蒸留専門化学メーカー



<お問い合わせ先>

業務部 経営企画チーム

TEL : 072-861-5322

MAIL : cp@osaka-yuka.co.jp

URL : <https://www.osaka-yuka.co.jp/>

<本資料取扱上の注意点>

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動する可能性があります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載している将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。

また、本資料は当社をご理解いただくために作成したもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定はご自身のご判断において行われるようお願いいたします。